



令和5年(2023)10月1日

31

## 陶器・像形展から銀座、日本橋界限を散策

いつも親しくしていただいている栃木県益子の陶芸家田中喜一さん厚子さんご夫妻が9月8日から9月13日の間、東京銀座のギャラリー「salon de la(サロン ドゥ ラー)」で開催された個展を見に行きました。そのギャラリーは、元々はアパートだった奥野ビルで、とても風情がありました。エレベータの扉の開閉は手動で行います。このタイプはシアトルのスミスタワーで見ましたが、日本で見たのは初めてでした。

個展の最終日に行ったところ、田中厚子さんの学生時代の同級生がたくさんいらしており、盛況でした。ギャラリーについては<https://salondela.com/ja/>をご覧ください。





ギャラリーのあるビルへは、東京駅八重洲口を出て徒歩で向かいました。八重洲口付近は、かねてより行きたかったところがいくつかありましたので、この機会に立ち寄りました。また、偶然通りかかって見つけた興味深いところもありました。

まず八重洲口を出てすぐ目についたのは「ヤンマー東京」で、以前滋賀県長浜にあるヤンマーミュージアムでヤンマーの歴史や農業・農機具を知ったことを思い出しました。トラクターが外からよく見えるところに展示されていました。ここは、9月16日に放送された「ぶらり途中下車の旅」の冒頭でも紹介されておりました。[https://www.yanmar.com/jp/yanmar\\_tokyo/about/](https://www.yanmar.com/jp/yanmar_tokyo/about/)



次に、以前から行きたかった「大垣共立銀行東京支店」に行きました。愛知県にいた時、この銀行をよく利用させていただいておりました。土曜日曜にも窓口業務を行なっている支店があり、ものすごく助かったことや、アメリカの銀行口座の残金を日本に送る際の面倒な手続きをさせていただいたこと





もありました。ただ、この銀行の支店は東京より以北には無いので、愛知から離れて3年経った今回口座解約に行きました。

岐阜県の銀行らしく、川崎重工で作られた飛行機の絵や石田三成の旗印(関ヶ原)の描かれたメモ用紙がご自由にお持ちくださいコーナーにありました。どの支店の方もとても親切で大好きだった銀行ですので解約は残念でした。

八重洲口を降りて大垣共立銀行での用事を済ませた後、「日本橋」を見に行きました。ただ橋があるだけでなく、詳しい説明が数箇所ありました。

## 日本橋魚河岸跡

所在地 中央区日本橋室町二丁目八番地域

日本橋から江戸橋にかけての日本橋川沿いには、幕府や江戸市中で消費される鮮魚や塩干魚を荷揚げする「魚河岸」がありました。ここで開かれた魚市は、江戸時代初期に佃島の漁師たちが將軍や諸大名へ調達した御膳御肴の残りを売り出したことに始まります。この魚市は、日本橋川沿いの魚河岸を中心として、本船町・小田原町・安針町(現在の室町二丁目・本町一丁目二帯)の広い範囲で開かれ、大変な賑わいをみせていました。

なかでも、日本橋川沿いの魚河岸は、近海諸地方から鮮魚を満載した船が数多く集まり、江戸っ子たちの威勢の良い取引が飛交う魚市が立ち並んだ中心的な場所です。一日に千両の取引があるともいわれ、江戸で最も活気のある場所の一つでした。

江戸時代より続いた日本橋の魚河岸では、日本橋川を利用して運搬された魚介類を、河岸地に設けた棧橋に横付けした平田舟の上で取引し、表納屋の店先に板(板舟)を並べた売場を開いて売買を行っていました。

この魚河岸は、大正十二年(一九二二)の関東大震災後に現在の築地に移り、東京都中央卸売市場へと発展しました。現在、魚河岸のあったこの場所には、昭和二十九年(一九五四)に日本橋魚市場関係者が建立した記念碑があり、碑文には、右に記したような魚河岸の発祥から移転に至るまでの三百余年の歴史が刻まれ、往時の繁栄ぶりをうかがうことができます。

平成十九年三月

中央区教育委員会

日本橋から見た震災前の魚河岸(左端)と日本橋川の様子、奥は江戸橋 The Nihonbashi Riverside Fish Market (left) seen from the Nihonbashi bridge, with the Edobashi bridge in the distance, before the 1923 earthquake.



日本橋

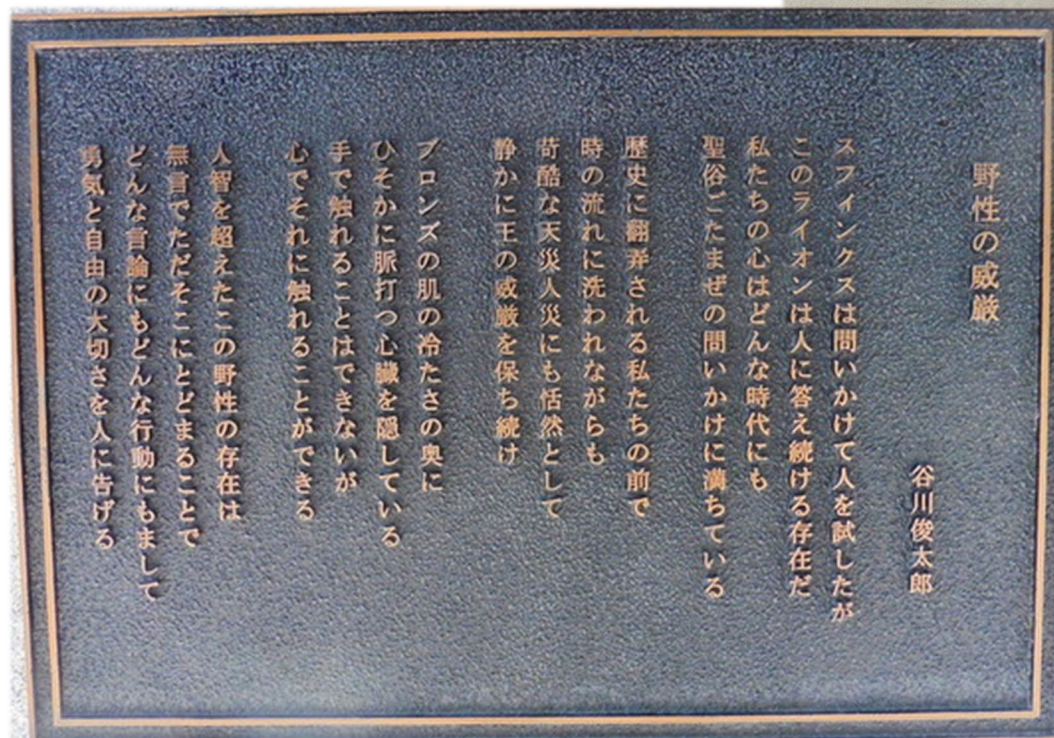


道路元標



また、すぐそばの三越にも歴史の表示のほかに、入り口のライオン像とライオン像に対する谷川俊太郎の詩が目にとまりました。

いかにも谷川俊太郎らしい言い回しで、そう感じたのは合唱で彼の詩に多く接したからだ実感しました。



三越の隣に「三井記念美術館」があります。

<https://www.mitsui-museum.jp/>

たまたま開催中の「超絶技巧、未来へ！明治工芸とそのDNA」を観ることができました。現代作家の作品の一部は写真撮影OKでしたので撮らせていただきました。

美術や音楽でのいろいろな表現に接する中で「すごい」「面白い」を感じる楽しさ、特に「面白い」を感じる楽しさと感じさせる難しさをここでも考えさせられました。

明治工芸から「すごい」を感じ、現代工芸家の追求から感じる「面白さ」と「過去を超える工夫・苦心・努力など」に触れた気がしました。





三越の隣に「日本銀行」があり、近くには「渋沢栄一像」もあり、日本銀行の隣に「貨幣博物館」があります。 <https://www.imes.boj.or.jp/cm/>

入り口で貨幣の歴史などの解説ビデオを観てから展示品を見ると大変わかりやすく、展示を楽しむことができました。



日本銀行



渋沢栄一像

銀座のギャラリー(奥野ビル)の近くに「警察博物館」がありました。1階から6階まで展示があり展示量が多いかと思いましたが意外と気楽に楽しめました。

(殉職された方々の記録の箇所は気楽とはいきませんが)

[https://www.keishicho.metro.tokyo.lg.jp/aboutmpd/welcome/welcome/museum\\_tour.html](https://www.keishicho.metro.tokyo.lg.jp/aboutmpd/welcome/welcome/museum_tour.html)



警察博物館

## 〔 齋藤茂樹の北関東巡り バックナンバー 〕

<a href="#"># 1</a> 鎌倉殿の13人	<a href="#">#16</a> シアトルの花見
<a href="#"># 2</a> 紅葉の群馬県	<a href="#">#17</a> 宇都宮市民合唱祭
<a href="#"># 3</a> 栃木、埼玉の名所	<a href="#">#18</a> 桜の名所 愛知・兵庫
<a href="#"># 4</a> 栃木、群馬県庁	<a href="#">#19</a> 群馬の桜と上毛かるた
<a href="#"># 5</a> 全国御守り特集	<a href="#">#20</a> 交通の要所・館林
<a href="#"># 6</a> 世良田東照宮・家康	<a href="#">#21</a> 第50回宇都宮市民合唱祭
<a href="#"># 7</a> 栃木・益子の陶器	<a href="#">#22</a> 骨波田の藤と埴 保己一
<a href="#"># 8</a> 奥の細道むすびの地	<a href="#">#23</a> 大室古墳群、鼻高展望花の丘
<a href="#"># 9</a> 古鎌倉街道	<a href="#">#24</a> 桜とあじさい、紅葉の太平山
<a href="#">#10</a> 新田義貞・上毛かるた	<a href="#">#25</a> ドン合唱団 歌い続けて65年
<a href="#">#11</a> 慈覚大師 円仁	<a href="#">#26</a> 宇都宮市民芸術祭合唱フェス
<a href="#">#12</a> バレンタインチョコ	<a href="#">#27</a> 第63回群馬県合唱コンクールを聴く
<a href="#">#13</a> 梅の名所 愛知・京都	<a href="#">#28</a> お盆飾りを調べてみた
<a href="#">#14</a> 梅の名所 栃木・群馬	<a href="#">#29</a> KTC混声合唱団を聴く
<a href="#">#15</a> 早咲きの河津桜	<a href="#">#30</a> 伊勢崎藩を守れ！天明浅間山大噴火

Back

「齋藤茂樹の北関東巡り」TOPへ戻る

Home

「ホームページ」表紙へ戻る